

## 「対島地域包括支援センター」

対島地域包括支援センターは、高齢者の皆さまが住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、総合的に支援を行う拠点です。高齢者ご本人やご家族、地域の皆さまからのご相談をお受けし、行政・介護保険事業所・医療機関などと連携しながら、さまざまな課題の解決に取り組んでいます。

また、地域の支えあいを大切に、高齢者やそのご家族が安心して暮らし続けられるよう、介護・福祉・医療など幅広い分野からサポートしています「近所で気になる方がいる」「自分や家族のこれからは心配」など、どんな小さなことでも構いません。お気軽に対島地域包括支援センターへご相談ください。

(所在地;伊東市八幡野1028-4伊豆高原十字の園内 TEL0557-55-2872

## 「認知症ケア研究会」

ふるさと協議会の活動として、当初から取り組んでいる活動に認知症に関する勉強会「認知症ケア研究会」があります。

11月に開催した内容では、認知症の症状がある方本人の視点、思い、そしてケアを行う家族の思いということを中心に、認知症の当事者、当事者家族、一般市民、認知症の地域支援グループである「チームオレンジ」や各ボランティアの方々も参加し、本人の視点や思いを理解した上での関わり方等を映像で共有し、意見交換を行いました。「認知症になると何もできなくなる」といった古い認知症観から、出来なくなることもあるが、出来ることもたくさんあり、周囲の理解や支えによって出来ることも増え、充実した生活を送ることも出来、初期の対応によってその後の本人や家族の生活、精神、健康に大きく影響を及ぼす大切なことであることも学びました。認知症に関する理解と少子高齢化による環境の変化は確実に進んでいます。基本的な考えに加えて、毎回のテーマやメッセージの対象等考えつつ、より効果的な内容で開催を行っていきたいと思います。



認知症ケア研究会の様子



## 「地域サミット」(2月開催予定)

昨年度初開催となった「地域サミット」は伊東市内でも特に高齢化が進む対島地域で規模や環境の異なる別荘地、分譲地、自治会、マンション等で繋がり、課題を共有し、解決方法を協議することを主な目的として開催することとなりました。初開催には多くの自治会、別荘地、マンション等から参加者があり、高齢化に関する課題からや近隣の住民同士の関係性についてなど、多種多様な課題や環境的な問題も共有しました。アンケート結果から課題を絞って、テーマを決めた開催を求める声が多く、2回目以降についてはコンパクトに絞った課題別開催を計画しています。すでに参加した自治会と別荘地等の連携が行われるといったこともあり、今後も継続的に一つ一つの課題を協議していける場となっていければと思います。

# 伊豆高原地域の公共交通利便性向上対策

## ～みんなで作ろう自分たちの交通システム～

### ● 令和7年度 伊豆高原地域での実証事業

令和7年11月18日より、伊東市内4地区で交通空白地帯解消を目的とした実証運行が始まりました。伊豆高原地域では「伊豆高原地区」と「城ヶ崎地区」が対象です。

この取り組みは、今後の公共交通利便性向上に向けた重要な一歩であり、前号でもお伝えした通り、伊豆高原エリアまちづくり協議会が重要課題として全面協力して進めている事業です。

今年度は開始直後から昨年度実績を上回る利用件数の立ち上がりとなっています。

ぜひ多くの方にご利用いただき、貴重なご意見をお寄せください。

### ● 実証運行概要

#### ① 対象者

伊豆高原・城ヶ崎地区の交通空白地帯にお住まいの方(地図上のA・B・Cブロック)

#### ② 運行日

令和7年11月18日～令和8年2月27日の平日

※12月27日～1月4日は運休

#### ③ 利用方法

・ 事前予約制(電話・スマホ・音声自動予約)

極力乗車希望日前日の12:00までに予約してください。

・ 乗降場所

自宅 ⇒ 指定目的地※ または、指定目的地※⇒自宅

※(ファミリーガーデンバス停、八幡野コミュニティセンター、マックスバリュー伊豆高原店、伊豆高原駅、カインズ、伊豆高原郵便局、城ヶ崎海岸駅〔城ヶ崎地区のみ〕)

自宅 ⇄ 地区内のA・B・Cブロック内任意の場所、またはその逆

・ 車両到着時に名前を告げて乗車。他利用者がいる場合は相乗り。

・ 料金

年内:無償

年明け～終了:250円(不足分は乗車補助券で精算)

・ 降車時に200円分の東海バス乗継券を1枚進呈

#### <お問い合わせ>

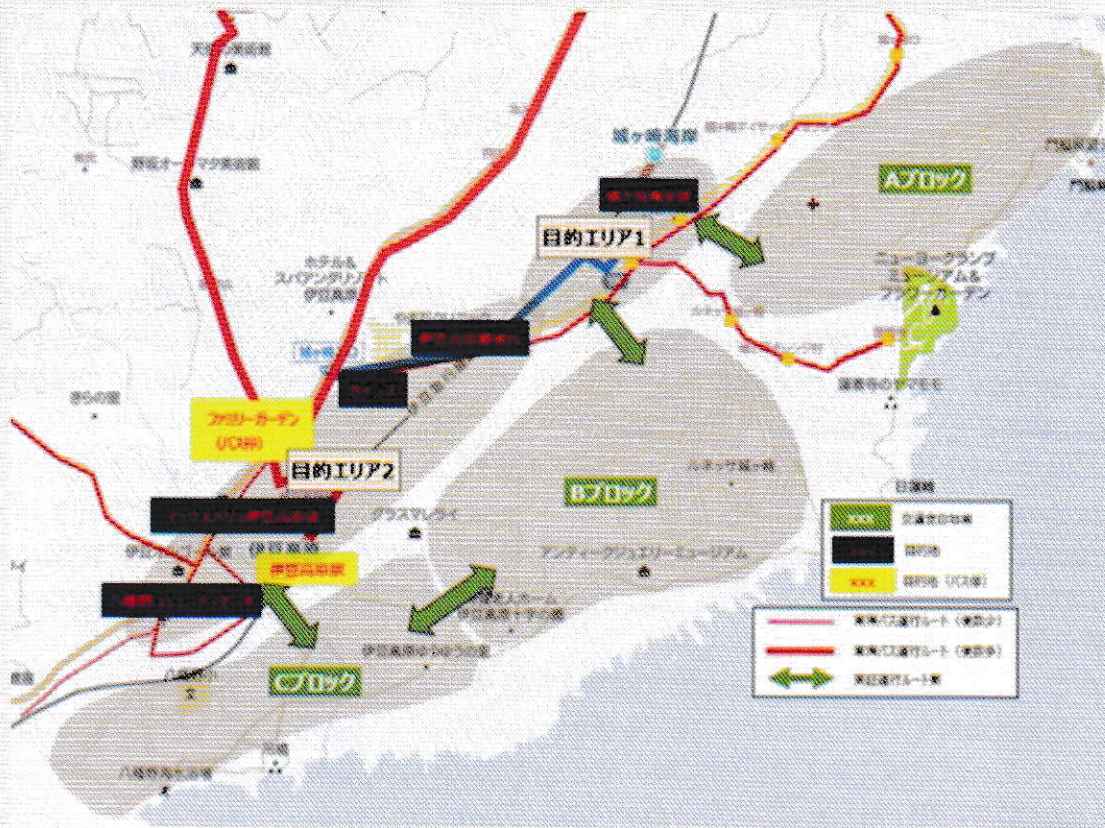
詳細・ご不明な点は各戸配布のチラシまたはホームページをご覧頂くか下記までお電話ください。

・ ホームページ:<https://anjingo.jp>

・ 伊東地域交通基盤協議会 電話:0557-52-4712

## ■伊豆高原地区運行エリア

Aブロック⇔Bブロック⇔目的エリア間を決められた時間で一日6往復します。



## ■城ヶ崎地区運行エリア

Aブロック⇔目的エリア1⇔Bブロック⇔Cブロック⇔目的エリア2間を決められた時間で一日6.5往復します。



## 伊豆伊東は東洋のガラパゴス 畑づくりは認知症予防

移住促進官民共同プロジェクトチーム  
座長 山本文夫 八幡野在住

伊豆半島はフィリピン海プレートが2000万年かけて数百キロ北上し、本州に衝突して半島となったというのは皆さんご存知です。途方もない時間をかけて南洋の生物がついに本州の生物たちと共存することになりました。そこは黒潮が温かい湿潤な気候をつくっているという、世界にまれな生物多様な環境です。

例をあげれば南方系と北方系のカミキリムシが合計20種類も共存する特異な地域、昆虫好きには魅力的なフィールドです。

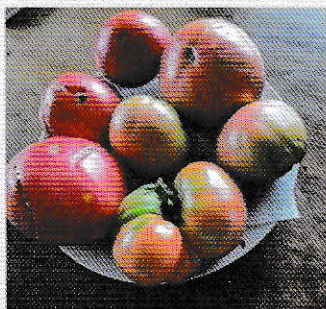
また伊豆半島の海藻は、寒冷域と暖海域の種が共存する「多様性のホットスポット」として特異性を持っています。特に紅藻・褐藻の種類が非常に豊富で、全国的にも際立った海藻相を示します。

さらに駿河湾の深海、相模湾の冷水塊、南伊豆の暖海が交錯し、南方系と温帯系の魚が共存し、潮だまりでは南洋の幼魚が戯れています。要するに伊豆半島は東洋のガラパゴスではないかと思う次第です。

科学者の中でプラネタリーバウンダリー(人類が地球上で安全に活動できる限界条件)という警鐘が鳴らされています。地球の温暖化、生物多様性の崩壊、森林伐採、淡水使用の限界、肥料の窒素・リンによる生態系の攪乱、大気エアロゾル負荷、海洋酸性化、新規化学物質の氾濫、これらが地球崩壊を招くといわれ、とりわけ生物多様性の損失、化学肥料の汚染はすでに取り返しがつかない状況にあると警告されています。1950年ごろを境に世界人口と人間活動が爆発的にのび、並行して資源・エネルギー消費が急速に増えた結果です。

池で自然農園を始めて3年、地元の農家さんとこんな会話が始められました。早春に早取りの玉ねぎを差し上げたところ「とてもおいしかったので、うちも自然農をやってみる」とのこと。別の方からは「困っているからシタケ栽培の使用済みの楢木(ほだぎ)を持っていってくれ」、これは栄養豊富です。さらに別の方から「無農薬の水田を始めるからやらしてあげるよ」と言われました。地元の方からこんな声、これは勲章をいただいた思いです。

全国で耕作放棄地は増えるばかり、伊東市も例外ではありません。耕作放棄地は里山の景観を害し、イノシシやシカ被害、不審者の侵入、果ては山火事をもたらします。近所の方と共同で畑づくりをする、農作業は他者との交わりの場になり、子供の教育の機会になり、しかも健康な食品を自給できる。最近の調査では65歳以上の高齢者で農作業をしている方の認知症発生率は45%も低いとのこと、大切にしたいですね。



### 編集後記

今号では、認知症ケア研究会や対島地域包括支援センター、地域サミットなど、伊豆高原エリアで進められている「暮らしを支える取り組み」をご紹介します。高齢化や移動、見守りといった課題は、いずれも私たちの身近な生活と深く結びついています。顔の見える関係の中で学び合い、対話を重ねることが、安心して暮らし続けられる地域づくりの土台になるのだと改めて感じました。

また、このたび伊東市長が決まり、伊豆高原エリアが抱えるさまざまな課題についても、行政と地域がこれまで以上に連携しながら、解決に向けて歩みを進めていく新たな局面を迎えています。地域での気づきや実践を大切にしながら、行政と協力し、一つひとつ形にしていくことが求められています。

「やんも」では、こうした地域の動きや人の想いを丁寧に伝え、つながりを育む場であり続けたいと考えています。今後の取り組みにも、ぜひご注目ください。

機関紙やんも 編集委員

利岡 正基  
徳本 政幸  
花房 義明